

取組実績の概要（2 ページ以内）

本事業は、初年次教育科目「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」を軸とし、学生、教員双方への働きかけを通して、学生と教員がアクティブ・ラーニングについて共に学び、新しい価値観や考え方に触れ成長する楽しさや喜びを感じとっていくことで、学士課程教育の成果を向上させる取組である。

徳島大学の新生が入学直後に従来の受動的学修者からアクティブ・ラーナーへ変貌する第一歩を踏み出すために、「鉄は熱いうちに打て (Strike while the Iron is Hot)」の精神に則り、新たに初年次教育科目に「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」(1 単位 必修 卒業要件) を全学部全学科に開設し、徳島大学の全学部が参画して合計 16 のプログラムを立ち上げ、1 年次全員が受講している。本科目では、学生が進取の気風を身につけた人材へ向かって自ら学び成長するために、アクティブ・ラーニングを実際に体験しながら、体験、リフレクション、概念化・抽象化、次への応用・実践のサイクルを繰り返す中で、能動的学修を実践するための基礎能力である「文章力」、「プレゼンテーション力」、「協働力」を身につける。同時に、この教育の場と連携して担当教員の職能開発 (FD) を実施し、そのティーチングスキルを向上させる。

◆学生への効果（能動的に学修するラーニングスキルの育成）

- ・ SIH 道場を受講した学生の約 90% が能動的に学修することの意義を理解したと述べており、この間における「SIH 道場」のプログラム満足度も高い水準を示した。また、各ラーニングスキルの理解や学修の振り返りを行うことに対する理解についても、全年度において 80% 以上の学生が肯定的であった。
- ・ 学生 1 人当たりのアクティブ・ラーニング科目に関する 1 週間あたりの授業外学修時間の平均は事業開始当時から段階的に上昇傾向にあり、授業外学修時間の改善に繋がった (図 1)。
- ・ 「SIH 道場受講前学生アンケート」と「SIH 道場受講後学生アンケート」から、各種ラーニングスキルに対する学生の自己評価について結果を比較すると、受講後において肯定的意見が増加していることが明らかとなった。SIH 道場受講を通じて、ラーニングスキル修得に関する自己評価が高まっていることがわかる。
- ・ 「大学 IR コンソーシアム調査」の結果から高学年次において授業外に能動的な学修を行っている学生の割合が増加していることが明らかとなり、能動的学修の習慣化が窺えた (図 2)。初年次段階におけるラーニングスキルの修得、アクティブ・ラーニング等の授業体験が、能動的学修の習慣を身につけることに繋がっていることが窺える。

◆教員への効果（学生の能動的学修を支援するティーチングスキルの育成）

- ・ SIH 道場は大学全体で 180 名以上の教員が毎年交代で担当しており、この 5 年間で延べ 1,093 名の教員が SIH 道場の実施に携わった。SIH 道場授業担当者の職能開発を FD として実施し、その FD 参加を通して我が国における高等教育の現状、本学の教育、学生の現状を知り、教育に対する意識の変化に繋がっている。

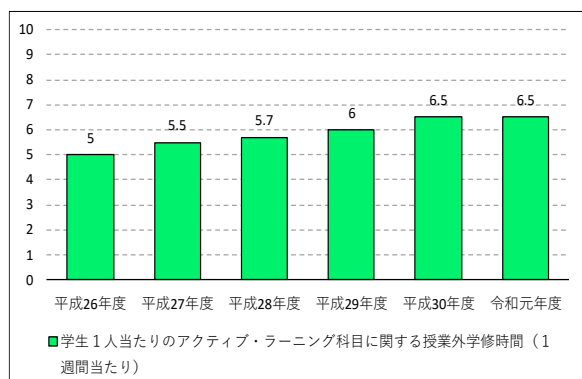


図 1: 学生 1 人当たりのアクティブ・ラーニング科目に関する 1 週間あたりの授業外学修時間の平均 (平成 26 年度～令和元年度)

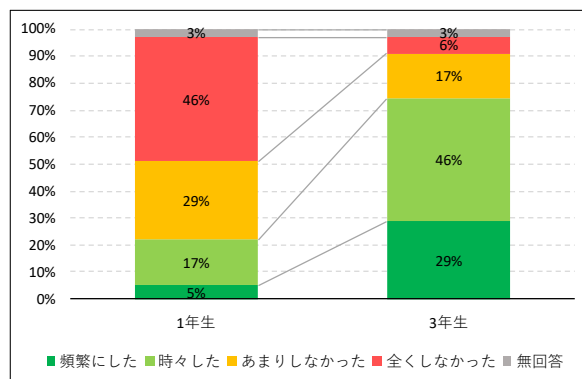


図 2: 授業時間外に他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした学生の割合 (令和元年度調査、学年別)

- ・本学教員が実際に SIH 道場を担当することで、アクティブ・ラーニングを授業実施者として体験することができ、反転授業などのアクティブ・ラーニングに関する知識、技能を修得することができている。専門教育科目におけるアクティブ・ラーニング導入科目率は、平成 25 年度には 47.1%であったが、この 5 年間で増加し、令和元年度には 78.7%にのぼった (図 3)。
- ・学内教員における FD への参加率についても、事業開始前はわずか 50.1%ほどであったが、事業採択後の平成 27 年度から大きく改善し、最終年度は 90.1%となった (図 4)。FD の参加率向上は本学教員の教育に対する意識の変化の現れであると言える。
- ・SIH 道場の授業担当者に対するアンケートの結果から、SIH 道場の目標に対する理解については 96%の教員から肯定的意見が得られており、「アクティブ・ラーニング型授業」「反転授業」「ルーブリック評価」「学修の振り返り」「教育経験の振り返り」についてどの程度学んだか (意義理解・修得 (実施可能)・他科目への導入) についても、事業開始初年度の平成 27 年度から改善の傾向が認められた。SIH 道場を通じて、アクティブ・ラーニングに関する教授法を実践的に身に付けたことがわかる。

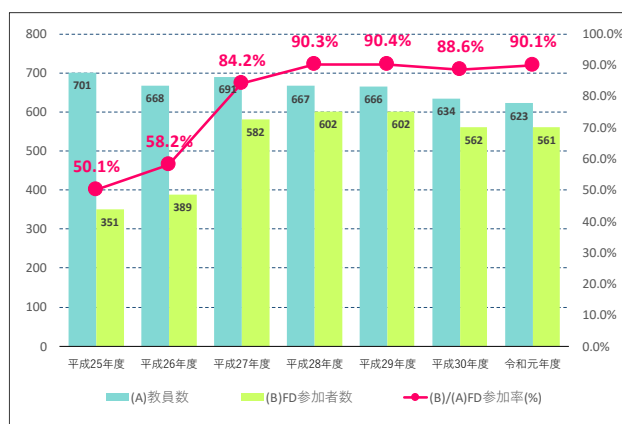
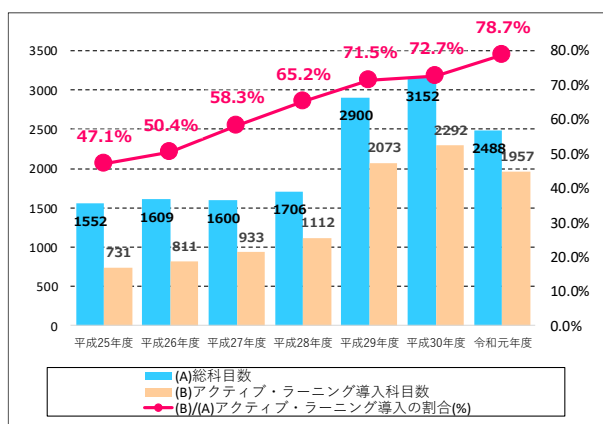


図 3: 徳島大学で開講する総科目数のうちアクティブ・ラーニングを導入している科目数とその割合に関する推移 (平成 25 年度～令和元年度)

図 4: 徳島大学における教員の FD 参加率の推移 (平成 25 年度～令和元年度)

【必須指標の達成度】

	平成 26 年度 (起点)	令和元年度	
		目標	実績
アクティブ・ラーニングを導入した授業科目数の割合	50.4%	80%	78.7%
アクティブ・ラーニング科目のうち、必修科目数の割合	42.7%	60%	53.5%
アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合	100%	100%	100%
学生 1 人当たりアクティブ・ラーニング科目受講数	12 科目	18 科目	14 科目
アクティブ・ラーニングを行う専任教員数	65.7%	77.2%	89.6%
学生 1 人当たりのアクティブ・ラーニング科目に関する授業外学修時間 (1 週間当たり)	5 時間	10 時間	6.5 時間